岸田國士全集 4

戲曲 4

岸田國士全集

4

戯曲

4

岸田國士全集 4　　第一一回配本（全二七巻）

一九九〇年九月一〇日　発行

定価四五〇〇円
（本体四三六九円）

著　者　岸田國士（きしだくにお）

発行者　安江良介

発行所　〒101-02 東京都千代田区一ツ橋二-五-五
株式会社 岩波書店
電話 〇三-二六五-四一一一

印刷・三陽社　製本・牧製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

© 岸田衿子 1990 Printed in Japan
ISBN4-00-091534-7

戯曲 4

昭和四年一月—六年一月

目次

牛山ホテル……1
長閑なる反目……77
是名優哉……117
取引にあらず……153
犬は鎖に繋ぐべからず……181
頼母しき求縁……231
桔梗の別れ……257
ママ先生とその夫……273
昨今横浜異聞……327
ここに弟あり……351
後記……379

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

牛山ホテル（五場）

牛山よね　ホテルの女将
同　とみ　よねの養女
藤木さと　真壁の妾
石倉やす　仏蘭西人の妾
真壁　S商会出張所旧主任
三谷　S商会出張所新主任
三谷夫人
鵜瀞（うのとろ）　S商会社員
島内　同
金田　金田洋行主
岡　写真師
納富　剣道教師
ロオラ　別居せる真壁の妻
その他、ボーイ、車夫、水夫、女等

仏領印度支那のある港

九月の末――雨期に入らうとする前

港に近く、仏国人の住宅地と、所謂「アナミツト」の部落とに接する一区劃、その中心にある日本人経営のホテル。

一

ホテルの帳場兼女将の居間――畳が敷いてある。

前面一段低く、椅子、テーブルを置いた土間。

右手に玄関を兼ねた撞球場に通ずるドア。左手は二階に上る階段と、食堂の入口。正面は大きな窓。

そこから波戸場の一部と水平線が見える。

日が暮れようとしてゐる。

とみ(十九)が、風呂から上つて、化粧をしてゐる。
やす(二十九)は、腹這ひになつて雑誌を読んでゐる。
二人とも白木綿の襦袢に腰巻だけをしてゐる。
さと(二十四)が、土間の上り口に腰をおろして、ぼんやり窓の外を見てゐる。これは、浴衣がけである。

さと　船はもうさつきから、著いたつだツとん、なんしとツとだろかい。
とみ　ベル・ビユウで茶でも飲んどツとたい。
やす　検疫で止められとツとだろ。上海から来た船はやかましかもん。
とみ　ほんに、コレラのはやつとるとだつた。おやすさん、風呂へ入つてこんかな……。
やす　今日は、やめとかう。
とみ　ひゆうじこつけ……！(無精者！の意)
やす　東京の奥さんに見てもらへばええ、印度支那にどぎやん別嬪がをるか……。
さと　船のつく日はいやいや。なんにも手につきやせん……。

やす　あんたが、また、何を待つとツとな。
とみ　ムツシユウ・真壁たい、きまつとるぢやなツか。
やす　今まで其処へをつた人間ば、誰が待つもんか。
とみ　そんなら誰や。
さと　……。
やす　今度来る主任さんな、あんた、名前ば覚えとらんかい。
さと　ムツシユウ・三谷……。
やす　さうさう、今朝、八号に行つたりや、そんムツシユウ・三谷のこツで、みんな大騒ぎだつた。
とみ　奥さんば連れて来ツていふとだツてえ……。
さと　そら善かばツてん、わしがこと、なんか云ふとりやせんだつたかい。
やす　あんたぐりや、運のよか人間な少なかて云うとつた。
さと　さういふこつぢやなかと。あつちのおツ母さんがわしのこつば悪う思ふとりやせんかしらん……。
やす　どうしてや。ただ、こぎやにや云ふとつた。——あん娘がもうちツと、家できばツてくるツと、よかばツてんがあて……。

さと　そぎやんした相談ばもちかけられたばツてん、わしや断わつた。そぎやん云ふつてちや、今から、いくらなんでもなあ……。

やす　そらあさうたい。尤も、わしなら、わかりやせん。そこがあんたと違ふとこつたい。わしや、今ん男と別れたら、また八号にでんごろごろしとつて、代りのムツシユウ・フランセばつかまゆツたい。今更国なんぞに戻つて、苦労する気にやならん。

ロオラ(三十)がはひつて来る。猶太系の仏国女、かなり贅沢ななりをしてゐる。

さと、慌てて起たうとする。

ロオラ　(眼ざとくそれを見つけ)もし、もし、あなた、真壁と一緒にゐる方でせう。真壁に会はせて下さい。

さと　(そこへ立ちすくんだまま返事が出来ずにゐる)

とみ　ムツシユウ・真壁、をらんばい。今、ケエに人ば迎ひぎや行つた。

ロオラ　うそでせう。あなた方、みんなうそつきです。わたし、あの人に沢山話したいことがありますから、どうしても会ふんです。

とみ　をらんけん、をらんていふとた。嘘と思ふなら、部屋でんなんでん見て来つとよかた。

やす　ほんなこてケエに行つとるけん、見て来なつせ。天草丸の著いとるケエだるけん。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

ロオラ　店の方へ行つても、会へません。何時でもゐないつて云ふんです。此処へは来たくありませんけれど、しかたがありません。

やす　わからん人ね、あんたも……。アレ・ボワル・オ・ケエ。ムツシユウ・エ・ラ・アベク・マダム・ウシヤマ。セ・セリユウ。

ロオラ　C'est pas vrai！（かう云ひながらどんどん二階に上る）

とみ　よかつかい。あぎやんことさせて……。

やす　むぞげえ！……。（可哀さうに！の意）

さと　裁判な、まだ片づかんとかしらん……。

やがて、ロオラが降りて来るが、その儘出て行つてしまふ。

やす　ムツシユウ・真壁が日本に戻るて云ふけん、慌て出したツだらう。あんたん面ば、善う覚えとつたなあ。

さと　たつた一つぺんなるばツてん、会うたたあ。

とみ　こないだおツ母さんに、あんたのこと、いろいろ訊いとつたえる。マリヤアジしたかてろん、子供が出けたかてろん、なんてろん、かんてろんて……。

やす　雲南の山ん中は、寂しかばい。好いた男となりや、あぎやんとこれ行たて、暮すこツた

い。吝気しうてしたてちや出来(でけ)んし……丸一年、自分の国の言葉ば使はでん居つて見ろな、あんた、どぎやんあつて思ふ。君が代だいろなんだいろ、歌はうごつなるばい。

とみ　日本語ば教ゆつとよかろてえ。

やす　あんたたちと話すごた行かんたい。そんなら同じこツたもん。（起ちあがり）どら、風呂(ふれ)へいつて来(く)う……（出て行きながら）一番の蚊帳、早うまた吊つとかんと、おツ母さんに怒(おこ)らるるばい。

とみ　今日は入らんて、いふとつて……。

（起つて、これも二階に上る）

岡（三十二）写真機を提げてはひつて来る。神経質らしく、一種の畸形的体格をした男。

岡　（さとを見つけ）あんた、ひとりかな。

さと　誰に用んあつと？

岡　実はあんたに……なんて、別に用と云ふわけぢやなかばツてん、写真ば一枚、撮らして貰はうて思ふち……。

さと　わしや、こん土地いをる間は、写真なんぞ撮りたうなかと。

岡　どうして？

さと　いつそ共(みんな)そぎやんいうとるけんたい。

岡　何処で……八号でかい？　ところが、さういうとつて、みんな撮つてますよだ、お花さんが、先月キヤビネを撮つたし、お千代さんは、こないだ、大型を写したし、それで、みんなには内証だつて云ふんだから、をかしかよ。妙な癖ば、つけたもんたい。

さと　ほうら、そぎやんいうて、あんたが喋舌つてしまふけん、好かん……。

岡　あんただけは特別、黙つとつてあげる。それに、あんたは、もう、あすこにや居らん女なんだもの。そぎやんむつかしかこといはんてちやあ、一枚写しておきなはりまつせ。かう云つちや何だが、九州へんにや、僕ぐらゐの写真屋はゐませんよ。

さと　そぎやん威張るなら、お千代さんの写真ば見せちみなはり。どぎやん写つとるか。

岡　お千代さんとあんたとは、違ふたい。写真は実物次第ですからね。

さと　今度来る三谷さんていふん奥さんば、写させて貰へばよかたい。

岡　それはそれ、これはこれ、商売と好意とをごつちやにしないで下さい。あんたなら、ただで写さうて云ふとたい。

さと　そぎやんこというとつて……。

岡　冗談ぢやなかばい。あんたが、ムツシユウ・真壁と二年間一緒に暮したのも、商売気を離

れてのこと、僕があんたの姿をカメラに納めて置きたいと希ふのも、これや、写真師岡なにがしとしてぢやなかです。金もなく、名もなく、印度支那三界に果敢ない恋を追ふ一日本人の、最後の心癒せです。

さと　……。

岡　そぎやん顔して、なんたいな、とつけむにやあ。おさとさん、わらくしや、これでも、真面目ですばい。あんたは、明日から自由なからだぢやありまツせんか。

さと　……。

岡　兎に角、二三日うちには、自由なからだになツとだらう。たつた一年でよか。僕の傍にをつてくだはり。一年が永すぎれば一月でもええ。一月、国へ帰るとば、延びやあち下はり。なあ、おさとさん、後生のお願ひです。

さと　……。

岡　ムツシユウ・真壁には金がある。僕にはないばツてんが、僕には、ムツシユウ・真壁にはなかものがある。あんたは、男の真心といふものを知つとりますか。愛する女のためには、命でも差出すといふ男の真心を……。必要な時は、金で縛つて置く。用がなうなれば、金をやるから出てゆけ。これが男の真心たいな？　成程、そのお蔭で、あんたは、五年の年期を三年あまりで済ますことができ、その上嫁入りの支度金まで持つて、お父つつあんの傍へ帰れるて云

ふかも知れん。しかし、それがなんたいな？　あんたは、ムツシユウ・真壁と、さういふ風に平気で別れられるぢやなかですか。

さと　平気……？　どうしてそぎやんこついはるツとな？

岡　どぎやんしてん別れられんと云ふんぢやなかでせう。

さと　そぎやんこつ云ふても、しよんなかもね。

岡　つまりそこたい。しよんなかごつさせたのは誰な？

さと　もう、わかつとるけん、やめち下はり。わしも、馬鹿ぢやなかけん……。

岡　さうですか。それぢやしよんなか。写真だけ撮らせち下はり。記念に一枚……。（写真機を出しながら）そのままでよかな。

さと　そんなら、今、著物ば著換えち来るけん、待つとつてな。（急いで階段を昇る）

岡は写真機を程よき処に据ゑ、撮影の準備をする。

この時、ホテルの女将よねを先頭に、鵜瀞、真壁、三谷夫妻、島内、金田などが、どやどやはひつて来る。

岡は驚いて、写真機を引抱へる。

よね（五十五）――太つた女、無造作なつくり。何処となく、苦労人らしい、さつぱりした女。

鵜瀞（四十二）――毛深かい眼のどんよりした男。酒飲みのだらしなさ。
真壁（四十）――がつしりした、活動家らしい、幾分荒んだ風貌。無表情。
三谷（三十七）――秀才型の紳士。固苦しい気取り。
三谷夫人（二十六）――内地ではざらに見る現代風の若夫人型。和服でヴェールをかぶつてゐる。
島内（二十五）――事務員らしい地味な青年。
金田（四十七）――植民地の小商人タイプ。不似合な口髭と眼鏡。

よね　（岡を見て）そぎやんところで、あんた、なんばしよツと？
岡　（何やら口の中で云ふが聞えない）
よね　（大きな声で）誰もをらんとかい、ここにやあ……？

食堂の方から、だるさうに、土人のボーイが現はれる。

よね　ムツシユウのバガアジ・アポルテ・アン・オオ。コンプリ？
ボーイ　モア・パ・モアイヤン。
よね　プルコア・パ・モアイヤン・エン？　トワ・ツウジユウル・マラアド。アロオル・ヴア。
オン・ガルドラ・パ・トア。コンプリ……？

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo